

1 朝日公民館の概要

朝日地区は市内の中心部に位置し、明治以降、松江駅ができて急速に発展してきた新しいまちで、人口約四千四百人、世帯数約二千二百世帯の地域である。駅周辺の交通網の整備が進行するにつれて、マンションの建設や大型店の進出が続き、日常生活においては大変便利な地域になった。その反面、住居を市周辺部に移す家庭も増え、住宅地としての家屋が年々減少の傾向にある。

朝日公民館は、昭和三十五年に開設、平成七年に現在の松江市立第三中学校の複合施設として新館が竣工し、平成十九年度から指定管理者制度による公設自主運営の公民館がスタートした。都市化の進展によって薄れがちになった人間関係を取り戻すため地域が一体となって、住民ひとりひとりが当事者意識を持ち、様々な取り組みが推進できるよう努めている。

2 事業の概要

(1) はじめに

①実証事業名 多文化共生によるまちづくり

②実証事業のテーマ 地域文化を語り在住外国人と私たちが共生できるまちづくり

③実証事業のねらい

外国人が安全で安心して、生きがいを持って暮らすことができるまちづくり事業は、松江市の玄関的存在である朝日地区が先駆的にやらなければならないことと自負し、この事業を推進することが、私たちが今日まで実施した事業の進展と国際文化観光都市である松江市の発展に繋がり、地域力醸成の大きな推進力になると信じている。具体的には在住外国人を対象とした日本語教室、日本語講師スタッフの育成、パソコン教室、道路表示の多言語化、松江文化の発信、協働しての防災訓練、地域活動への参加等を実施し、私たちと在住外国人との共生をめざしたい。

(2) 具体的な取り組み

①在住外国人のための日本語教室

ア 日本語教室実施委員会の立ち上げ

日本語講師、多文化共生ネットワーク、しまね国際交流センターなど関連団体で委員会を組織し、実施委員会を五回開催し事業計画・連絡調整・情報交換を進めた。この委員会を通して在住外国人に関する情報を共有し、現況を共に把握し、取り組む課題を明確にして関係機関と協力し活動を始めた。

イ 日本語教室指導者の養成

○日本語ボランティア養成講座受講生の募集

関係機関のホームページや新聞、公民館の広報誌等を使い受講生の募集を行った。英語ができなくても、日本語と国際交流に興味のある方なら誰でも参加できるということもあり、地域住民のほか市外からの応募者もあった。その結果、合計二十四名の希望者が集まった。

○学習プログラムの作成

在住外国人の現状を知ると共に、「多文化共生による地域づくり」について

の理解を深めることを主眼に置き学習プログラムの内容を検討した。特色の一つとして、学習教材に「まつえりあ」を使い、松江の文化や歴史を伝えていくことによって、世界に松江を発信したいと考えた。

○日本語ボランティア養成講座の開校

在住外国人に対する日本語学習の支援及び地域文化交流活動を行なうボランティアを養成することを目的とし、十月十七日に開校した。全九回で毎週土曜日の午前十時から二時間のスケジュールで講座を実施している。受講料は無料だが、テキスト代は実費。



日本語ボランティア養成講座 開校式

ウ 「あさひ日本語教室」の開催

○参加者（在住外国人）の募集

しまね国際交流センターのホームページやメールマガジンを利用し情報を発信した。また、島根大学の留学生向けに大学の掲示板へチラシを掲載した。公民館の広報誌では、日本語に困っている外国人の方を紹介してもらうように呼びかけた。結果、八名の在住外国人から申し込みがあった。

○学習プログラムの作成

事前に参加者（在住外国人）に質問表を記入してもらい、個々のレベルを把握し、学習プログラムを検討した。日本語講師にプログラム内容をまとめてもらい、「まつえりあ」を活用しながら教室をすすめて行き、参加者（在住外国人）へ日本語と同時に松江の文化や歴史も学んでもらうよう計画した。

○日本語教室の開講

日本語ボランティア養成講座を終了した人でボランティア登録をされた方（二十名）が日本語教室の指導に当たる。一月九日に開校式と第一回の教室を開催した。全十回の教室で参加費は無料で行っている。現段階では、参加者が少ないためレベルに応じて一対一での指導を行っている。今後、託児ボランティアも募集し、受け入れ体制の充実を図りたい。



日本語教室の様子



親子で日本語教室に参加

②道路標示等の多言語化

ア 多言語標示に関する協議

市内各所の各種案内標示等で外国語が示されているものは非常に少ない。この現状から日本語を第一言語としない人たちにとっては、不安な要素であると考えられ、在住外国人の方と協働して多言語標示の推進を図る。



在住外国人と多言語標示について協議

イ 在住外国人と地域周辺の踏査

松江駅の周辺を中心に、在住外国人とともに案内標示等を見てまわり意見交換をしながら調査する。

ウ 多言語案内表示サンプルの作成

在住外国人との意見交換や踏査結果にもとづいて、案内表示サンプルを作成した。設置の必要性の高い箇所はたくさんあったが、まずは公民館やその周辺に試験的に設置することにした。場所・見やすさなどの意見を聞きながら、改善の必要があるところは変えて、徐々に設置範囲を広げていきたい。

③国際防災訓練

ア 防災訓練の企画立案

消防署、松江市防災安全課、しまね国際センターなど関係機関と内容について協議した。在住外国人は「地震体験がない」、「避難所での過ごし方」など未経験のことが多い。地域住民といっしょに訓練を実施することで、災害時の対応はもとより、お互いの価値観や習慣の違いを知りあえることも目的のひとつにした。

イ あさひ国際防災訓練の実施

在住外国人と地域住民、スタッフ合わせて約五十名の参加のもと二月二十七日に朝日公民館を会場に実施した。起震体験、防災研修会、非常食の試食という内容で進めていった。特に防災研修では、通訳ボランティアや翻訳されたテキストを使い、わかりやすく説明を行った。参加した地域住民もこの訓練を通して交流を深め、お互いの習慣や文化の違いを知るいい機会になった。

3 事業の成果と課題

(1) あさひ日本語教室

教室で活動している日本語ボランティアの皆さんはとても意欲的に取り組んでいる。参加者（在住外国人）から、帰り際に次の教室開催日を楽しみにしている様子が見られる。回を重ねるごとに参加者（在住外国人）とのコミュニケーションが深まりつつあることを実感している。課題としては日本語ボランティアの人数に対し参加者が少ないので、もっと情報発信を工夫して、多くの在住外国人の方に来てもらえるよう広報したい。

(2) 多言語標示

地域住民が、在住外国人と一緒に地域を踏査することで、外国人が日頃から不便に思っていることを気づくことができる。課題としては、設置場所によって許可や申請

をしなければならない所も数多くあり、行政や企業等とも連絡調整をしながら活動を進めていかなければならない。

(3) 国際防災訓練

地域住民と在住外国人が今回の訓練を通して、お互いを知りあい、習慣や文化の違いに気づくことができたように思う。また、日本語教室のボランティアの方にも参加してもらい、防災研修で説明されることをやさしい日本語に置き換えて伝えたりしたので、日本語教室の研修としても役立った。課題として、こうした研修や訓練を一回だけで終わらず計画を立てて継続して実施することが重要と考える。

4 今後の方向性

(1) 日本語教室

この教室の存在をより多くの在住外国人に周知するために広報内容を工夫したい。第一期の日本語ボランティア養成講座・日本語教室を振り返り、託児ボランティアや連絡調整の整備などを行い第二期に向けて準備をしていきたい。参加者（在住外国人）のロコミや積極的な広報活動を行い、在住外国人との輪を少しずつ広げていきたい。

(2) 多言語標示の推進

在住外国人は、まちの看板だけでなく、パンフレットやごみ収集カレンダーなど日常生活においても不便に感じていることが多々ある。在住外国人との現地踏査や協議を重ね、少しでも暮らしやすい環境に整備していきたい。

(3) 国際防災訓練

今回の防災訓練は初歩的な内容で行なったが、今後、地域に多言語標示看板を整備し、避難誘導や避難所での過ごし方など本格的な訓練も取り入れたいと考えている。また、研修や訓練内容を工夫して、年度を通して継続的に実施し、地域住民と協働で訓練をすることで交流を一層深めていきたいと考える。

(4) 地域活動への参加

上記のような学習や交流を生かして、従来からある地区の地域活動に在住外国人の参加を促進していきたい。今回、日本語教室の受講者（在住外国人）の中に母国（インド）で料理人をしていた方がおられ、インド料理教室の講師になってもらい地域住民と交流を行ない、大変好評であった。

このように在住外国人の特技や特徴を生かしながら住民との一体化を図りたい。



インドカレー教室が山陰中央新報に掲載されました
[2010.2.12]